



# 日本統計学会 会報 2015.1.30

No.  
162

発行—— 一般社団法人 日本統計学会  
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル5F  
(公財) 統計情報研究開発センター内 日本統計学会事務局  
Tel & Fax : 03-3234-7738  
編集責任— 鎌倉 稔成 (理事長) / 三分一 史和 (庶務理事)  
竹内 恵行 (広報理事) / 西埜 晴久 (広報委員)  
入戸野 健 (広報委員)  
振替口座—00110-3-743886  
銀行口座—みずほ銀行九段支店普通 1466879番

JAPAN STATISTICAL SOCIETY NEWS

## 目次

- |   |   |
|---|---|
| 1. 巻頭随筆：創業の勇気と守成の忍耐… 後藤昌司… 1  | 6. 日本経済学会連合からのお知らせ<br>…………… 小島 宏・西郷 浩…10                |
| 2. 2015年度統計関連学会連合大会のお知らせ(第一報)<br>…………… 坂本 亘・栗原考次・山口和範… 3                  | 7. 「データサイエンス・オンライン講座」の開設<br>総務省統計局統計情報システム課統計情報企画室 … 11 |
| 3. 第9回日本統計学会春季集会のお知らせ(第二報)<br>…………… 鎌倉稔成・宿久 洋・足立浩平・<br>…………… 村上秀俊・中村和幸… 4 | 8. 第2回臨時理事会・委員会報告…………… 12                               |
| 4. 日本統計学会各賞受賞候補者の推薦募集<br>…………… 鎌倉稔成… 6                                    | 9. 博士論文の紹介…………… 14                                      |
| 5. 統計グラフ全国コンクールにおける<br>日本統計学会会長賞表彰…………… 渡辺美智子… 8                          | 10. 新刊紹介…………… 14  |
|   | 11. 学会事務局から…………… 15                                     |
|   | 12. 投稿のお願い…………… 15                                      |

## 1. 巻頭随筆：創業の勇気と守成の忍耐—医学統計研究会10年の歩み—

後藤昌司 (特定非営利活動法人 医学統計研究会)

特定非営利活動法人 医学統計研究会は2014年10月13日で満10歳を迎えた。紆余曲折はあったが、徐々にではあるが、いくらかの成果、とくに医学および統計科学の世界に対していささかなりとも貢献の実があがってきていることに、老若男女の仲間の方々と喜んでいる。また、日本統計学会をはじめ統計学関連の学会の方々にも、公私を問わず大変にお世話になっている。これらの方々にも、心よりお礼と感謝の意をささげたい。

本稿では、「初心忘るるべからず」に則り、恩師〔(故)北川敏男先生〕の教え①「鹿を追う猟師 森を見ず」の戒めに注意すること：そのために、自分の歩んできた道を第三者的に回顧してみること(歴史をしるして見ることに)、②これから、5年、10年のスパンでいかなる問題領域で自分の進路があるかを探索的に考えてみることに、③「新

安全学」の提唱について意識し、その構想をたてることに従い、「これまでのこと」を簡潔に要約・紹介したい。そのうえで、今後の本研究会の魅力を増す二三の努力目標についても触れたい。

・「医学統計研究会」のオフィスは、2004年4月7日に開設され、メールによる交信も4月12日に開始された。そして、「特定非営利活動法人」の資格をとるために、仲間の方々と準備を開始した。大阪府への折衝を数度に重ねて、2004年10月4日に「認証」通知を得て、2004年10月13日に登記を済ませ、晴れて「特定非営利活動法人」の冠がついた。その過程では、正に「前例のない」作業や折衝を繰り返した。「定款」などはホームページに記している。ご参照いただくと幸いである。

・本研究会の先行きについては、「特定非営利活動法人」のどのような活動を展開するかについて、常務理事をはじめとして、監事、理事、会員の方々と折に触れて議論している。とくに、他に類のない独自の方向として以下の点を意識している：本物の人間であるための条件「人間の格」については①不完全の自覚から滲み出る謙虚さ、②より以上のものを目指して生きること、③人の役に立つ存在になることといった教えがある（芳村思風、1993）。そこで「世界に唯一のNPOとして」「NPOの格」を追求することにした。すなわち、①「恥」と「矜持」に敏感になること、②組織の人たちと「人間の格」を追求すること、③健全に「清富」を目指すことにした。現在、この方向に沿って、数々の勤行をこなしている。

筆者個人としては、自己の研鑽の目的として「人間の魅力の醸成」を掲げている。組織も個人の集まりであり、組織の魅力も同じ観点にたって増すことができると考えている。すなわち、組織も「生きもの」であり、成長する証として「志」が必要であると思っている。因に、「志」の要件は以下のとおりである。

組織としての主題をもつこと：これは上記の「定款」に記したとおりである（なお、個人の場合には「人間的魅力の醸成」にある）。主題を活かす原理・原則をもつこと（私的には「掃除・勤行・学問（場を清め、時を守り、礼を正す）」を基本としている）。言行一致の実践を心がけること。

・「組織文化」とは、組織が外部への適用や内部の問題に対処する際に学習した、組織自身によって、創られ、発見され、発展してきた基本的な生き方の体系である。このとき「組織文化」の一つの効用は、組織が長年にわたり活力をもち、業績も伸長していることである。これが「見えざる資産」としての文化である。それは組織を構成する人たちの意欲・人格・人徳・智慧・経験などである。一般に「良い組織」の心象は組織の外部の人や社会から、どうも目を離せない組織であると常

に関心を寄せられ、見つめられて、いつも新しい価値を創造・提供でき、所属している人たちが充実感をもち、自分の人生を活かせる組織であろう。

文化（culture）には「耕す」の意味があり、「根づいた」ものの価値観を表す。そのため、文化は「一朝一夕」にはつくり出すことができず、継続することで初めて得られる。とくに、日本の文化を大切にしようとする際には、日本語とその意味を大切にしたいと思う。たとえば、「人材」などを軽く使うことは戒めたい。因に「人材教育」の用語などはありません。文化の力は「美意識」であり、日本独自の風土が困ったときの「強さ」を生むと考えられる。

・「老舗」とは、日本人の心をくすぐる懐かしい響きをもっている。その語源は「仕似せる」にある。そこに「先祖代々の業を守りつぐこと」、「先祖代々から繁盛している店」、また「それによって得た顧客の信用・愛顧」の意がある（広辞苑）。本稿で注目したいのは最後の意味、「信用と愛顧」である。日本にも300年以上にわたって続いた「老舗」が数多くある。医学統計研究会の将来像を時代に適応させながら思い浮かべるとき、多くの「老舗」での伝承にある教訓は参考になる。

人生を重い荷物をついで坂道を上る姿勢になぞらえた徳川家康の台詞がよく知られているが、多くの老舗にもこの種の教訓が活かしている：上り坂は、実績が上昇する好調のときの譬えであるが、実際に、その坂を上る人の姿は、必然的に前かがみになる。そこに、人に頭を下げる、あるいは「ありがたい」の感謝の念を捧げる姿、すなわち謙虚な姿勢が見てとれる。他方、下り坂は潜在的に実績の下降を暗示するが、坂を下るときの姿は、背をそり返した形になり、他者に対して威張る形状になっている。人生では、上り下りは常に味わうことであるが、そのときの実態が本人にみえないだけに厄介である。実際に、会社などの組織がおかしくなるのは、苦しい時代を一步一步進め微々たる実績をあげているときではなく、一度でも「原因不明の好調」を味わった経験をもって、

ものごとに処することであるといわれる。継続には、老舗ごとの独自の智慧が生きている。そして、その智慧を形にして心身に刻んでいく努力の跡に多くの教訓が潜んでいる。単純な毎日の繰り返しのようであるが、神仏や組織で働く人への感謝の念、さらには、歴史に遺る偉人の人たちの教えを大切に繰り返し実践している。そこに「分別」と「分度」が活きている。因みに、筆者の好きな教えで踏襲したいことは、「本ものは続く、続けると本ものになる」である。

・筆者が学窓をでて、会社に入った折には、当今と異なり統計家の「仕事」や「職業」はほとんど認められていなかった。そして、医薬・医療の分野で統計業務の重要性が喚起され、仕事が増えるに従って、「どことはなし」に「統計家は嫌われている」雰囲気を知覚するようになった。確かに「声高い」一部の「御用研究者」ともいえる統計家の「強い」姿勢（「悪代官」といえる心象）や日本にもみられる『統計家喧嘩物語』など、統計科学のもつ本来の魅力と乖離があると感じていた。多くの医師や臨床に携わる方々との真摯なおつき

合いやデータ解析、さらには最近では主流ともいえるようになった臨床研究、臨床試験、治験の計画業務にご一緒するようになって統計家と医家の溝が、徐々にであるが、意識せずともよい程度に狭まってきたように思う。両者にとって「人間の文化」に寄与する姿勢は根幹でつながっているはずである。そのような観点から本研究会が微々たる活動であっても貢献できることをありがたく思っている。最近の時代の流れは「国際化」を無視できないが、表層を追わず、日本の研究（成果）を深耕すること、そして歴史を尊重しながら「日本発」の作品づくりを仲間の方々と励みたいと思っている。

本研究会の発展・成長のためには、「ある程度」の規模が重要であるが、「蟹は自分の甲羅に似せて穴を掘る」といわれる。そこには仲間の方々たちの表情の温かさと豊かさが読み取れる人間距離、また「1対n（“One of them”）」のつき合いでなく、「1対1（“One to one”）対応」をn回反復できる人たちからなる「適正規模」に留意しておきたい。

## 2. 2015年度統計関連学会連合大会のお知らせ（第一報）

### —企画セッションの公募—

#### 2015年度統計関連学会連合大会

運営委員会委員長 坂本 亘（岡山大学）

実行委員会委員長 栗原考次（岡山大学）

プログラム委員会委員長 山口和範（立教大学）

#### 2.1. 2015年度統計関連学会連合大会について

2015年度統計関連学会連合大会は、応用統計学会、日本計算機統計学会、日本計量生物学会、日本行動計量学会、日本統計学会、日本分類学会の共催により、2015年9月6日（日）から9日（水）まで岡山大学津島キャンパス（[http://www.okayama-u.ac.jp/tp/access/access\\_4.html](http://www.okayama-u.ac.jp/tp/access/access_4.html)）で開催いたします。初日の9月6日は、チュートリアルセ

ッションおよび市民講演会、9月7日から9日までは、企画セッションなどの一般講演に加えコンペティションやソフトウェアセッションなどを予定しています。

#### 2.2. 企画セッションの公募

統計関連学会連合大会プログラム委員会は、市民講演会、チュートリアルセッション、企画セッ

ション、コンペティションセッション、ソフトウェアセッション等を担当しております。統計関連学会会員の皆様でご意見やご提案をお持ちの方は是非お知らせください。

また、企画セッションに関しましては、今回もこれまでどおり公募いたします。広い意味で統計学の発展への寄与、統計学の社会的使命に関わる企画のご提案を歓迎いたします。なお、応募が多数の場合にはプログラム委員会で調整させていただくこともありますのでご了承ください。

企画セッションの申込みに際しては、セッションのテーマとねらい、オーガナイザーの氏名・所属・連絡先、予定講演者と演題名をメールにてお知らせください。企画セッション1件あたりの時間は120分を予定しております。講演件数・講演方法などは、この時間の範囲で自由に設定いただけます。

企画セッション応募締切 2015年3月6日(金)

企画セッション応募先

kikaku2015(at)jfssa.jp (at)を@に置き換えて下さい。

担当責任者 長塚豪己(中央大学)

## 2.3. その他の準備状況のご報告

### 2.3.1 コンペティションについて

「コンペティション講演」に関わる事項はつぎの通りです。コンペティション講演は、研究内容とプレゼンテーションの能力を競う企画です。参加資格は2015年4月1日時点で満30歳未満の若手研究者(博士後期課程院生をふくむ)、または、

講演時に学部学生や修士課程(または博士前期課程)院生(年齢を問いません)です。連名講演の場合、コンペティション対象者は実際に口頭発表する方です。なお、研究報告の申し込み時点でコンペティション対象者は、共催6学会のいずれかの会員でなければなりません。ただし、申し込みと同時に入会手続きをする方も含みます。また、事前審査は行ないません。申し込んだ有資格者全員がコンペティションに参加して頂けます。審査は、報告集の内容と当日の口頭発表に対して、各学会から選出された審査員による総合的な評価で行います。

### 2.3.2 チュートリアルセッション、市民講演会、ソフトウェアセッションについて

9月6日にチュートリアルセッションおよび市民講演会を開催予定です。多くの市民や研究者の方々にとって有益な内容を企画中です。皆様の参加をお待ちしています。詳細は、第二報でお知らせいたします。

### 2.3.3 一般講演申込、報告集原稿提出、事前参加申込について

一般講演や参加の事前申込み、報告集原稿提出はホームページ上で行います。一般講演申込の締め切りを5月下旬(予定)とし、それ以降、報告集原稿提出および参加事前申込の締め切りを設定いたします。確定した期日や具体的な企画は、2015年4月下旬ごろの第二報でお知らせいたします。

## 3. 第9回日本統計学会春季集会のお知らせ(第二報)

鎌倉稔成(日本統計学会理事長)

宿久 洋・足立浩平・村上秀俊(企画・行事担当理事)

中村和幸(実行委員長)

第9回日本統計学会春季集会を明治大学にて開催いたします。会員の皆様による活発な議論を期待しております。企画セッションのプログラムは

下記のようにになりました。午前は特別セッション「物理学と統計学の接点：新潮流と展望」および文部科学省・科学技術振興機構による事業説明会

を行い、午後は「統計教育大学間連携ネットワークの活動を基にした統計学教育の新たな制度設計」「確率過程の統計モデリングと超高頻度ビッグデータ解析への応用」「スパース・低ランク推定手法による高次元データ解析」「カーネル型推定と関連する話題」という4つのセッションを2セッションずつ並行して行います。ポスターセッションでは、ポスター発表を広く募集しております。優れたポスターに対して、「優秀発表賞」と「学生優秀発表賞」を授与いたします。セッション終了後、懇親会を計画しており、授賞式も合わせて行います。会員の皆様の参加を心よりお待ちしております。

## 記

**日時**：2015年3月8日（日）9：00～17：30＋懇親会

**会場**：明治大学中野キャンパス（東京都中野区中野4-21-1）

**参加費**：無料（懇親会は有料）

## プログラム

### 【午前の部】

会場：明治大学中野キャンパス5F ホール

**9：30－9：40「開会式」**

開会：鎌倉稔成（日本統計学会理事長）

挨拶：国友直人（日本統計学会会長）

**9：40－11：40「特別セッション：物理学と統計学の接点：新潮流と展望」**

オーガナイザー：樋口知之（統計数理研究所）

座長：樋口知之（統計数理研究所）

講演1：岡田真人（東京大学）

「レプリカ交換法を用いた変数選択」

講演2：田中冬彦（大阪大学）

「量子統計：実験技術の進歩にともなうニーズの変遷と新たな課題」

講演3：鹿野 豊（分子科学研究所）

「実験家の協働で見えてきた統計的考え方の重要性と期待」

講演4：文部科学省

「文部科学省および数学協働プログラムの活動紹介」

[本セッションは、文部科学省 科学技術試験研究委託事業「数学・数理科学と諸科学・産業との協働によるイノベーション創出のための研究促進プログラム（数学協働プログラム）」との共催]

**11：50－12：40「文部科学省・科学技術振興機構 説明会」**

司会：宿久 洋（同志社大学）

[1] JST 戦略的創造研究推進事業の数学関連領域について

CREST「現代の数理科学と連携するモデリング手法の構築」研究領域

研究総括 坪井 俊（東京大学）

さきがけ「社会的課題の解決に向けた数学と諸分野の協働」研究領域

研究総括 國府寛司（京都大学）

[2] 文部科学省委託事業「数学・数理科学と諸科学・産業との協働によるイノベーション創出のための研究促進プログラム（数学協働プログラム）」について

実施責任者 伊藤 聡（統計数理研究所）

**12：40－14：00「ポスターセッション（コアタイム）」（昼休み）** 会場：6F プレゼンスペース

### 【午後の部】

**14：00－15：40「企画セッション1：統計教育大学間連携ネットワークの活動を基にした統計学教育の新たな制度設計」** 会場：5F 515教室

オーガナイザー：竹村彰通（東京大学）

座長：竹村彰通（東京大学）

講演1：出張勝也（株式会社オデッセイコミュニケーションズ）

「ビジネス統計スキルの重要性と資格認定」

講演2：西郷浩（早稲田大学）

「早稲田大学政治経済学部の『統計学入門』における統計検定の利用」

講演3：狩野裕（大阪大学）

「大阪大学における高度副プログラム『データ科学』とその展望」

講演4：山口和範（立教大学）  
「立教大学スーパーグローバル大学創成支援事業におけるテータサイエンス副専攻の概要」  
14：00－15：40「企画セッション2：確率過程の統計モデリングと超高頻度ビッグデータ解析への応用」会場：5F 516教室  
オーガナイザー：内田雅之（大阪大学）  
座長：内田雅之（大阪大学）  
講演1：内田雅之（大阪大学）  
「拡散過程の適応的推測法と高頻度データ解析への応用」  
講演2：清水泰隆（早稲田大学）  
「確率微分方程式のレヴィ型小分散モデルにおけるドリフト推定」  
講演3：吉田朋広（東京大学）  
「超高頻度データと統計的漸近理論」  
15：40－15：50 休憩  
15：50－17：30「企画セッション3：スパース・低ランク推定手法による高次元データ解析」会場：5F 515教室  
オーガナイザー：鈴木大慈（東京工業大学）  
講演1：林 浩平（国立情報学研究所）  
「因子化情報量基準に基づくスパースモデル選択」  
講演2：鈴木大慈（東京工業大学）  
「低ランクテンソル推定におけるベイズ推定量の性質」  
講演3：加藤賢悟（東京大学）  
「高次元中心極限定理に関するいくつかのトピック」  
講演4：矢田和善，青嶋 誠（筑波大学）

「Principal component analysis based clustering for high-dimension, low-sample-size data」  
15：50－17：30「企画セッション4：カーネル型推定と関連する話題」会場：5F 516教室  
オーガナイザー：前園宜彦（九州大学）  
座長：前園宜彦（九州大学）  
講演1：五十嵐岳，柿沢佳秀（北海道大学）  
「境界バイアスのない非対称カーネル推定量の最近の進展」  
講演2：内藤貫太（島根大学）  
「ノンパラメトリック平滑化」  
講演3：前園宜彦（九州大学）  
「カーネル型推定量に対する正規近似の改良」  
18：00－20：00「懇親会」会場：明治大学中野キャンパス1F 食堂  
○ポスターセッションの申し込み  
メールにて poster-haru15@jss.gr.jp 宛てお申し込みください。詳細は集会ホームページ [http://www.jss.gr.jp/ja/convention/spring/09/JSSspring2015\\_poster.html](http://www.jss.gr.jp/ja/convention/spring/09/JSSspring2015_poster.html) をご覧ください。なお、申し込み締め切りは2月13日（金）です（厳守）。  
○懇親会の申し込み  
メールにて konshin15@jss.gr.jp 宛てお申し込みください。詳細は集会ホームページ [http://www.jss.gr.jp/ja/convention/spring/09/JSSspring2015\\_party.html](http://www.jss.gr.jp/ja/convention/spring/09/JSSspring2015_party.html) をご覧ください。会場準備の都合上、2月26日（木）までにお申し込みください。それ以降のお申し込みについては、空きがある場合のみ受け付けます。早めのお申し込みよろしく願います。

## 4. 日本統計学会各賞受賞候補者の推薦募集

鎌倉 稔成（日本統計学会理事長）

日本統計学会制定の以下の各賞の受賞候補者の推薦を募集します。

第20回 日本統計学会賞

第11回 日本統計学会統計活動賞

第11回 日本統計学会統計教育賞

第9回 日本統計学会研究業績賞

第8回 日本統計学会出版賞

いずれも推薦期間は2014年12月23日（火）から

2015年4月3日(金)と致します。推薦書の書式は全て学会ホームページ (<http://www.jss.gr.jp/ja/>) からダウンロード可能です。推薦書は各賞とも全て以下への郵送をお願いします。封筒に「～賞推薦書在中」と朱書きして下さい。不明な点は学会事務担当者にご照会下さい。

[宛先・照会先]

〒101-0051

東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル5F

(公財)統計情報研究開発センター内

日本統計学会

TEL & FAX 03-3234-7738

E-mail : shom@jss.gr.jp

以下に各賞共通の規程並びに各賞個別の概要をお示しします。

#### ○各賞共通

##### [受賞対象]

各賞受賞の対象となる者は、その年齢、性別、国籍、日本統計学会の会員・非会員の別を問わない。

##### [推薦方法]

推薦者は各賞所定の書式に従って推薦する。各賞受賞候補者を推薦することができる者は、日本統計学会の正会員、名誉会員に限る。

##### [選考方法]

各賞受賞対象者の選考は、日本統計学会に設けた各賞の選考委員会が、会員の推薦を受けて実施する。

##### [発表]

各選考委員会は選考結果を日本統計学会代議員会に報告し、大会期間中に授賞式を行う。

#### ○各賞の概要

##### 日本統計学会賞

##### [趣旨]

統計学の研究および普及に対して貢献した個人に対して授与し、その功績を顕彰する。

##### [対象範囲]

対象とする分野は次のとおりとし、全体として年間3名程度に授与する。

**理論**：統計学の理論の発展に多大の貢献のあった者

**実証・応用・計算**：この分野は以下のような内容を含む。

(1) 人文・社会系では、経済、経営の実証分析、社会学、言語学、心理学の調査・分析など、統計的手法を利用して社会的現象を解明するのに貢献のあった者。

(2) 医学、工学、農学、理学などでは統計的手法の適用による具体的な問題の解決に対する貢献のあった者。

(3) 統計計算では、統計的分析のためのアルゴリズム・ソフトウェアの開発に貢献のあった者。

(4) 応用一般として、分野を問わず統計調査の標本設計、経営管理などで貢献のあった者。

**その他**：理論・実証・応用などを含め、幅広く統計学の普及・発展に貢献した者。

##### [推薦・選考方法]

推薦者は所定の書式にしたがって、対象範囲に定められた分野のいずれかに候補者を推薦する。

選考委員会の構成は以下の通りとする。

・日本統計学会会長、前会長、理事長、会誌編集担当理事2名、及び会長が推薦し代議員会が承認した者若干名。

・選考委員会委員長は、原則として日本統計学会会長が務める。

##### [賞の内容]

賞状および記念品などの副賞を授与する。

#### 日本統計学会統計活動賞

##### [趣旨]

研究や教育に限らず、広く統計学及び統計の分野において高く評価しうる活動を顕彰する。

##### [対象範囲]

授賞の対象は、次に掲げる分野の活動である。

(1) 統計学及び統計を支える基盤の充実・高度化(統計関連領域の研究・教育組織の設立、実務家へのサポート、統計に関する企画・推進等)。

(2) 研究・教育のための環境整備に対する貢献（ソフトウェア、データ・ベースの開発及び支援等）。

(3) 新たな研究領域・分野の開拓。

(4) 新たな統計の作成（個人、グループ・団体等による統計の作成と継続、及び作成機関における従来活動を越えた取組み等）。

#### 〔選考方法〕

選考委員会の構成は以下の通りとする。

- ・日本統計学会会長、前会長、理事長、学会活動特別委員会委員長、及び会長が推薦し代議員会が承認した者若干名。
- ・選考委員会委員長は、原則として日本統計学会会長が務める。

#### 〔賞の内容〕

受賞対象となる活動を担った個人又はグループ・団体には、賞状及び賞牌を授与する。

### 日本統計学会統計教育賞

#### 〔趣旨〕

統計教育の研究及び実践において顕著な業績を挙げた個人又は団体を顕彰し、わが国の統計教育の発展並びに統計の普及、啓蒙に貢献することを目的とする。

げた個人又は団体を顕彰し、わが国の統計教育の発展並びに統計の普及、啓蒙に貢献することを目的とする。

#### 〔対象範囲〕

授賞の対象となる者は、次に掲げる分野において多大の貢献のあった個人又は団体とする。

- (1) 統計教育に関する著書、論文
- (2) 統計教育の実践
- (3) 統計教育に用いるソフトウェア、テキスト、教材等の開発
- (4) 統計の普及、啓蒙
- (5) その他統計教育の発展に寄与する活動

#### 〔選考方法〕

選考委員会の構成は以下の通りとする。

- ・日本統計学会会長、前会長、理事長、統計教育委員会委員長、及び会長が推薦し代議員会が承認した者若干名。
- ・選考委員会委員長は、原則として日本統計学会会長が務める。

#### 〔賞の内容〕

受賞者には、賞状及び賞牌を授与する。

## 5. 統計グラフ全国コンクールにおける日本統計学会会長賞表彰

### －現行および次期学習指導要領における統計的課題学習を支援－

学校現場で実施されている現行の学習指導要領では、知識基盤社会を担う将来の人材育成に向け30年ぶりに理数教育の柱として統計内容が拡充されており、とくに生徒の身近な問題解決における統計活用力の育成が意図されました。とくに、中学校数学科で3年間を通した領域「資料の活用」が新設され、かつ単元「データの分析」を含む高校数学Ⅰが必履修化し、その教育を受けた生徒がこの1月に初めてセンター等の大学入試を受験します。

現在は既に、次期の学習指導要領改訂のための審議が行われていますが、中教審は昨年末の12月22日に、「新しい時代にふさわしい高大接続の実

#### 検定担当理事 渡辺美智子（慶應義塾大学）

現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について（答申）（中教審第177号）」を公表し、その中で、「高大接続改革と歩調を合わせて学習指導要領を抜本的に見直すこと、育成すべき資質・能力の観点から構造を見直す、課題の発見と解決に向けた主体的・協働的な学習・指導方法であるアクティブ・ラーニングへの飛躍的充実を図ること、現行の大学入試センター試験を廃止し、大学で学ぶための力のうち、特に『思考力・判断力・表現力』を中心に評価する新テスト『大学入学希望者学力評価テスト（仮称）』を導入し、各大学の活用を推進すること」が提言されています。知識偏重から獲得した知識に基づ



く思考力・判断力・表現力を育成するという新しい学力観を基点とする教育改革は、高校だけではなく大学教育にも影響を与えることとなります。

現行の指導要領においても、この新しい学力獲得のため数学科の中にも課題学習の時間が設けられており、特に、「資料の活用」や「データの分析」内容を数学活用や探求的な課題学習に活かすことが期待されていますが、次期の改訂では更に、統計的思考力・判断力・表現力を育成する生徒の課題学習への取り組みが、総合的な学習を始め数学以外にも教科の枠を超えて拡大されるものと思われま

す。日本統計学会は、学校教育における統計教育の体系化を関連学協会と協働して文科省へ提言し、実現後も、その円滑な実施と質保証を支援するため、統計検定制度を立ち上げて、4級「資料の活用」、3級「データの分析」を通して、新しい学力観に沿う統計思考を中心とした評価問題の研究開発と社会への実装に務めてきました。同時に、評価の多様性を確保し統計的な課題学習の普及を促進するため、2011年度から表題の統計グラフ全国コンクールを後援し、学習指導要領に即した統計的探究活動の成果が認められる優秀な作品一点に、日本統計学会会長賞を授与しています。

本年度は、愛媛県立宇和島東高等学校経済研究部の5名の生徒の共同研究『ブラッドオレンジの6次産業化で地域活性化』が日本統計学会会長賞を受賞し、昨年11月19日に国立オリンピック記念青少年総合センターで開催された第64回全国統計大会（主催：総務省、統計情報研究開発センター）の席上で、全国から集まった約600名の参加者を前に、総務大臣特別賞、文部科学大臣奨励賞に続いて、日本統計学会会長賞の表彰状が国友直人統計学会会長より直に作者の高校生に授与されました。

総務大臣特別賞は、沖縄県の高校生3名による作品『「食べる」ことは「生きる」こと 大切な「命」をありがとう。～沖縄の畜産編～』、文部科学大臣奨励賞は、京都市の小学2年生の作品『はたらく がんばれ イーストきん』で、これらの作

品は、統計グラフ全国コンクール HP で公開されています。

受賞作品は、全国の小・中・高校生・大学生から大人まで、2万5千件を超える応募作品の中から、各都道府県の統計グラフコンクールを兼ねた第1次審査、総務省職員等による第2次審査を経た後、鎌倉稔成理事長、竹内光悦統計教育委員会委員長も審査委員となっている統計グラフ全国コンクール最終審査会において選ばれています。なお、第1次審査を通過した作品すべてに、毎年、統計検定4級（活動賞）が日本統計学会および統計質保証推進協会理事長の連名で授与されています。

統計グラフ全国コンクールは、統計グラフの作成を通じて、日常生活の中で統計を利用することの有用性を知り統計調査への理解を深めることを目的に、（公財）統計情報研究開発センターの主催、総務省、文部科学省、日本統計学会、日本品質管理学会等の関係機関の後援及び協賛により、昭和28年から実施されており、今年度で第62回目を迎えています。

また、国際統計協会・統計リテラシープロジェクトでも、毎年、各国に同様の統計ポスターコンペティションの開催を呼び掛け、その代表作品を競う国際統計ポスターコンペティションを実施しています。国際コンペティションの表彰とポスター展示は世界統計大会において行われていますが、日本の規模と実績は参加国の中で最も大きく国際的な模範であるとして、Japanese Statistics Poster Competition marking 61 years of success, ISLP News Letter Vol 7.1 January 2014の中で3頁に渡り詳しく紹介されました。

この国際統計ポスターコンペティションでは、単独の作品は応募基準から外れており、数名のグループ作品を推奨しています。国際社会が世界共通の力として育むべき力量を協働的問題解決力に置いていることが伺えます。

日本でも、現行の指導要領の施行時から継続して、中学生と高校生の生徒に、統計検定と統計グラフコンクールへの参加を授業に組み込んだ長野

県立屋代高校・附属中学校の横澤克彦教諭が、日本統計学会統計教育賞に続いて、「生のデータを収集・分析し、論理的なプロセスを踏みながら解決につなげ、戦略を立てるまでの能力を試行錯誤させながら育成している。今後の統計教育の手本となる。」として、本年度の読売教育賞算数・数学部門最優秀賞を受賞し、更に文部科学大臣優秀教職員表彰も受けました。

次期学習指導要領および大学教育改革においても、課題の発見と解決に向けた主体的・協働的な

アクティブ・ラーニングの飛躍的拡充が目指される中で、今後、その第3者評価としての統計グラフコンクールと統計検定の役割は、益々大きくなっていくと思われます。統計思考力の評価法の確立に向けた研究は、国際的にも注目される領域です。会員の先生方には、是非、統計検定の問題策定にご協力いただけますようお願いいたします。  
参考：横澤（2014）「屋代高校・附属中における新しい統計教育の試み（4つ）と実現された探究活動」, 読売教育賞受賞者論文集63, 21-31.

## 6. 日本経済学会連合からのお知らせ

小島 宏・西郷 浩（日本経済学会連合評議員）

日本統計学会が加盟する日本経済学会連合では、例年通り平成27年度も加盟学会に対して国際会議派遣補助を支給します。応募者多数の場合、日本経済学会連合理事会が対象者を選考します。また、1回の募集につき1学会1件の応募が原則ですので、希望者が複数の場合には理事会で選考いたします。募集方法の詳細は日本統計学会事務局にお問い合わせください。

日本経済学会連合 国際会議派遣補助

(a) 目的：

加盟学会の会員が、平成27年4月1日から平成28年3月31日までに開催される海外での国際会議に出席する場合、往復渡航費・宿泊のための補助金を支給する。

(b) 補助額：

原則として開催地により7段階（10万円から40万円まで5万円刻み）とする。

(c) 募集時期：

第1回：平成27年2月10日（日本統計学会事務局宛の締め切り）

第2回：平成27年5月末日（日本統計学会事務局宛の締め切り）

局宛の締め切り）

注）第2回は、第1回選考の結果、余裕定員があるときにのみ応募する。

(d) 応募の条件：

派遣先の国際会議は申請学会が公認したものであること、申請学会よりの派遣者が同会議での報告者または討論者であること。被派遣者は、過去5年間、日本学術会議から派遣費を受けていないこと、また、当年度において、日本学術会議をはじめ他の機関から補助を受けていないこと。申請は、1回の募集につき1学会1件に限る。また、補助が受けられるのは、年間で1学会1件とする。

(e) 備考：

申請には、当該国際会議に関するインフォメーション（レター、プログラムなど）を添付すること。また、補助を受けた被派遣者は、帰国後1ヶ月以内に「国際会議派遣報告書」ほかを経済学会連合事務局に提出すること。この補助を受けて国際会議に出席した場合には、経済学会連合評議員会（10月ごろ）にて30分程度の報告を依頼することがある。

## 7. 「データサイエンス・オンライン講座」の開設

### ー 「社会人のためのデータサイエンス入門」の受講者募集開始ー

#### 総務省統計局統計情報システム課統計情報企画室

我が国の国際競争力を維持し、経済成長を加速させるためには、ビジネスの現場においても、データに基づいて課題を解決する能力の高い人材、いわゆるデータサイエンスを身に着けた人材が不可欠となっています。

このような状況を踏まえ、総務省統計局及び統計研修所では、統計力向上サイト「データサイエンス・スクール」の開設等、“データサイエンス”力の高い人材育成のための取組を進めてきました。

これを更に推進するため、自らの学びをサポートするウェブ上で誰でも無料で参加可能なオープンな講義「データサイエンス・オンライン講座」を開設しました。

この講座の第1弾として、「社会人のためのデータサイエンス入門」の受講者の募集を平成26年12月19日から開始しました。

今回募集を開始した「社会人のためのデータサイエンス入門」は、統計学の基礎やデータの見方等、データ分析の基本的な知識を学ぶことができる内容となっています。この講座は日本政府が初めて提供する「MOOC 講座」であり、日本統計学会にも協力団体として参画いただいております。

#### 社会人のためのデータサイエンス入門の概要

- ▶ 講座はMOOCプラットフォーム「gacco」を通じて提供
- ▶ 平成27年3月17日開講
- ▶ 1回10分程度×4～7回程度（1週間）×4

週間のビデオ講義

- ▶ 各週の確認テストと最終テストの実施

#### 【各週のテーマ】

##### 第1週：統計データの活用

コースへの導入、分析事例から分析に用いる統計的な考え方、データの見方への導入を図る

##### 第2週：統計学の基礎

データ分析に必要な統計学の理論的な基礎を学ぶ

##### 第3週：データの見方

データの見方について基本的な方法を学ぶ

##### 第4週：公的データの入手とコースのまとめ

誰もが入手可能なデータである公的統計データの入手方法を学び、コースのまとめを行う

講座の詳細等は、本講座紹介用ウェブサイト (<http://gacco.org/stat-japan>) を御覧ください。



こうした取組を通じて、日本の企業活動の活性化及びオープンデータの利活用の促進につながることを期待しています。

## 8. 第2回臨時理事会・委員会報告

### 第2回臨時理事会

日時：2014年11月22日（土）12：00～13：00

場所：中央大学後楽園キャンパス6号館61005号室

理事の総数 12名 出席理事の数 10名

監事の総数 2名 出席監事の数 2名

理事：国友直人会長，鎌倉稔成理事長，三分一史和（庶務），酒折文武（庶務），大野忠士（会計），西山陽一（会誌編集・欧文），谷崎久志（会誌編集・和文），竹内恵行（広報），勝浦正樹（大会），渡辺美智子（検定）

（以上10名，カッコ内は役割分担）

監事：竹村彰通，矢島美寛

### <第1議案> 常設委員会における委員の交代（国際関係，大会 [プログラム，運営]）

鎌倉理事長より，国際関係委員，大会委員の交代について次のように提案があり，承認された。

#### ・国際委員

笛田薫委員（辞任2014.12.31付け）より塚原英敦委員（就任2015.1.1付け）に交代

#### ・大会委員

黒住英司委員より橋口博樹委員に交代（2014.10.1付け）

田畑耕治委員より櫻井哲朗委員に交代（2014.10.1付け）

### <第2議案> 臨時委員会における委員の交代

鎌倉理事長より，質保証委員会，基準委員会，出版企画委員会，産学連携推進委員会の各臨時委員会の委員を次のように定める旨の提案があり，承認された。

#### ・質保証委員会（任期2015.1.1～2015.12.31）：

竹村彰通（委員長），岩崎学（副委員長），今泉忠，田村義保，舟岡史雄，渡辺美智子，山本拓，伊藤彰彦，田栗正章

#### ・基準委員会（任期2015.1.1～2015.12.31）：

田栗正章（委員長），今泉忠，岩崎学，岡太彬訓，折笠秀樹，竹村彰通，田村義保，椿広計，西村圭一，林篤裕，水田正弘，山口和範，渡辺美智子，美添泰人，藤井良宜

#### ・出版企画委員会（任期2015.1.1～2015.12.31）：

鎌倉稔成（委員長），岩崎学，国友直人，西郷浩，竹村彰通，田中豊，矢島美寛，酒折文武

#### ・産学連携推進委員会（任期2015.1.1～2015.12.31）：

椿広計（委員長），大野忠士，鎌倉稔成，鈴木督久，西井龍映，舟岡史雄，安川武彦

### <第3議案> 学会賞各賞の候補者推薦と選考委員について

鎌倉理事長より，学会各賞の候補者推薦の開始について提案があり，推薦受付期間を2014年12月23日（火）～2015年4月3日（金）とすることを承認し，会長が推薦する選考委員は社員総会（3月7日）において承認を得ることとした。

### <第4議案> 日本統計学会75周年記念事業委員会資金の移管に関して

大野理事より資料に基づき，日本統計学会75周年記念事業委員会が管理してきた資金について，平成26年12月31日までに一般社団法人日本統計学会に移管する提案があり，審議の上承認された。なお，今回の移管分の用途は理事会で決めることが確認された。

### <第5議案> 「統計数理研究所と日本統計学会のAkaike Memorial Lectureの共同事業の提案」

西山理事より，資料に基づき，統計数理研究所と日本統計学会の「Akaike Memorial Lecture」に関する共同事業について提案があり，日本統計学会の共催事業として協力することが承認された。

#### <第6議案> 会員の入退会（回覧）

鎌倉理事長より、回収資料に基づき入退会者が紹介され、承認された。

#### <第7議案> 臨時社員総会招集の件

1. 日時 2015年3月7日（土）午後6時30分から
2. 場所 統計数理研究所（立川）会議室2
3. 会議の目的事項
  - (1) 社員総会における通常の審議

#### <第8議案> 被選代議員会招集の件

1. 日時 2015年3月7日（土）臨時社員総会終了後（午後7時30分ごろから）
2. 場所 統計数理研究所（立川）会議室2
3. 会議の目的事項
  - (1) 会長候補者の選出
  - (2) 被選理事長の選出

#### 委員会

日時：2014年12月21日（土）13：00～14：20

場所：中央大学後楽園キャンパス6号館61005号室

出席：国友直人会長、鎌倉稔成理事長、三分一史和、酒折文武、大野忠士、西山陽一、谷崎久志、竹内恵行、勝浦正樹、渡辺美智子、竹村彰通（監事）、矢島美寛（監事）

#### <報告事項>

##### 1. 欧文誌編集委員会

西山委員長より、第44巻第2号（2015年3月発行予定）の編集作業の進捗状況が報告された。

##### 2. 和文誌編集委員会

谷崎委員長より、第44巻第2号（2015年3月発行予定）の編集作業の進捗状況が報告された。

##### 3. 大会委員会

勝浦委員長より資料に基づき、2014年度統計関連学会連合大会の報告と、2015年度統計関連学会

連合大会における企画セッションとして、国際セッションと受賞者講演が入ることが確認された。

#### 4. 企画・行事委員会

宿久委員長の代理で三分一庶務理事より、会報No.161に第9回春季集会の開催案内（第1報）を掲載したこと、口頭発表セッションの企画を募集中（11月末まで）であることが報告された。

#### 5. 庶務委員会

三分一委員長より、(1) 研究部会の募集について（受け付けは2014年12月5日から2015年2月4日まで）、(2) 代議員選挙の結果（学会HP掲載済）、(3) 科研費（研究成果公開促進費（国際情報発信強化））に申請したこと、が報告された。

#### 6. 広報委員会

竹内委員長より、会報No.161が発送されたこと、会報の原稿募集時期や掲載依頼のあった記事の管理方法の改善を検討しているとの報告があった。また、日本統計学会ロゴの使用について申請が2件（Springerの統計学会モノグラフ、日本統計協会の日本オープンオンライン教育推進協議会（JMOOC）の公認配信プラットフォーム（gacco）のスタディノート）あり、許可したことが報告された。

#### 7. 国際関係委員会

報告事項なし。

#### 8. その他

竹村監事（MOOC委員）より、JMOOC（gacco）における開講状況、反転授業について、受講料等は一般財団法人統計質保証推進協会の収入になること、今後も、総務省の講座への協力や、gaccoでの続編が検討される可能性があることが報告された。

渡辺理事より、京都国際会議が開催され、無事に終了し、次回は上海で開催する予定であることが報告された。

酒折理事（翻訳小委員）より、統計科学百科事典の翻訳についての進捗が報告された。なお、再版分以降の印税については日本統計学会の収入になる予定であることが報告された。

#### <審議事項>

1. 欧文誌編集委員会  
審議事項なし。

2. 和文誌編集委員会  
審議事項なし。

3. 大会委員会  
審議事項なし。

4. 企画・行事委員会  
審議事項なし。

5. 庶務委員会  
審議事項なし。

6. 広報委員会  
審議事項なし。

7. 国際関係委員会  
審議事項なし。

8. その他  
竹村監事より資料に基づき、日本統計学会が共催した理数系学会教育問題連絡会シンポジウム「これからの理数系教育を考える」において、日本統計学会が負担する分担金が28,603円となり、各種分担金として会計処理することが承認された。

## 9. 博士論文の紹介

最近の博士論文を原稿到着順に紹介いたします。  
(1) 氏名 (2) 学位の名称 (3) 取得大学 (4) 論文題名 (5) 主査または指導教員 (6) 取得年月の順に記載いたします。(敬称略)

#### 博士論文

● (1) 吉森雅代 (2) 博士 (工学) (3) 大阪大学  
(4) An Empirical Best Linear Unbiased Predictor in

Small Area Estimation via Adjusted Maximum Likelihood Method (5) 狩野 裕 (6) 2014年9月25日

● (1) 寺田吉壺 (2) 博士 (理学) (3) 大阪大学  
(4) Statistical Theory of Clustering Methods for Multivariate Data (5) 狩野 裕 (6) 2014年9月25日

## 10. 新刊紹介

会員からの投稿による新刊図書の紹介記事を掲載します。

・安道知寛, 『高次元データ分析の方法: Rによる統計的モデリングとモデル統合』, 朝倉書店, 2014年7月, 3,500円+税,

ISBN: 978-4-254-12833-8

内容紹介: 大規模データ分析への応用を念頭に、統計的モデリングとモデル統合の考え方を丁寧に解説している。LassoなどRによる実行例を多数含み、ファイナンス、マーケティングなどへの応用例を含んだ実践的内容である。

・Aki-Hiro Sato, Applied Data-Centric Social

## 11. 学会事務局から

### 学会費払込のお願い

2014年度会費の請求書が会員のお手元に届いていることと思います。会費の納入率が下がると学会会計に大きく影響いたします。速やかな納入にご協力をお願い申し上げます。また便利な会費自動払込制度もご用意しています。次の要領を参照の上、こちらもご活用下さい。

### 学会費自動払込の問合せ先

学会費自動払込問合せの旨とともに、氏名と住所を以下にお伝えください。手続きに必要な書類が送付されます。

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6

能楽書林ビル5F

(公財)統計情報研究開発センター内

日本統計学会担当

Tel & Fax : 03-3234-7738

E-mail : shom@jss.gr.jp

### 入会承認

荒木崇, 石田崇, 稲川健太郎, 岡田謙介, 金子周平, 川野義昭, 神田英一郎, 小池健太, 小島要, 古山貴之, 作村建紀, 佐藤正昭, 佐藤賀一, 島田峰夫, 田口雅也, 田栗正隆, 竹内宏行, 鶴田大, 中山厚穂, 橋本真太郎, 林崇弘, 涌井等, 東京図書株 (敬称略)

### 退会承認

明永駿佑, 泉弘志, 岩瀬晃盛, 梅沢豊, 尾崎タイヨ, 河野泰幸, 寒川典昭, 高松満至, 南慎太郎 (敬称略)

### 現在の会員数 (2014年11月22日)

名誉会員	17名
正会員	1,427名
学生会員	55名
総計	1,499名
賛助会員	16法人
団体会員	7団体

## 12. 投稿のお願い

統計学の発展に資するもの、会員に有益であると考えられるものなどについて原稿をお送りください。以下のような情報も歓迎いたします。

- 来日統計学者の紹介  
訪問者の略歴, 滞在期間, 滞在先, 世話人などをお知らせください。
- 博士論文・修士論文の紹介  
(1) 氏名 (2) 学位の名称 (3) 取得大学 (4) 論文題名 (5) 主査または指導教員 (6) 取得年月 をお知らせください。
- 求人案内 (教員公募など)

- 研究集会案内
- 新刊紹介  
著者名, 書名, 出版社, 税込価格, 出版年月をお知らせください。紹介文を付ける場合は100字程度までとし, 主観的な表現は避けてください。  
できるだけe-mailによる投稿, もしくは, 文書ファイル (テキスト形式) の送付をお願い致します。

### 原稿送付先 :

〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-7  
大阪大学大学院経済学研究科

竹内 恵行 宛

E-mail : koho@jss.gr.jp

(統計学会広報連絡用 e-mail アドレス)

- 統計学会ホームページ URL :  
<http://www.jss.gr.jp/>
- 統計関連学会ホームページ URL :  
<http://www.jfssa.jp/>
- 統計検定ホームページ URL :  
<http://www.toukei-kentei.jp/>
- 住所変更連絡用 e-mail アドレス :  
[meibo@jss.gr.jp](mailto:meibo@jss.gr.jp)
- 広報連絡用 e-mail アドレス :  
[koho@jss.gr.jp](mailto:koho@jss.gr.jp)
- その他連絡用 e-mail アドレス :  
[shom@jss.gr.jp](mailto:shom@jss.gr.jp)



